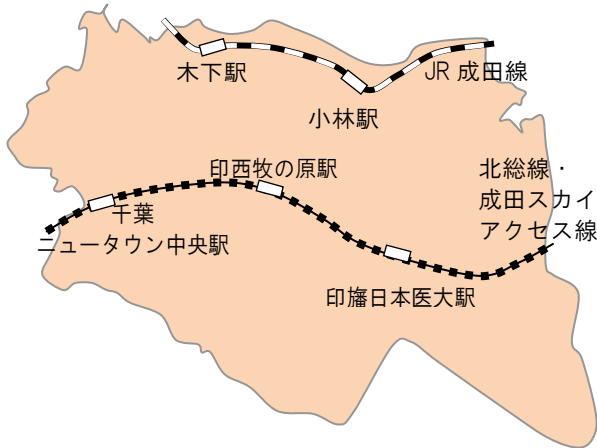




第2章 印西市の健康や食をめぐる現状

第1節 印西市の概況

(1) 地理的特徴



印西市は、平成22年3月に旧印西市と印旛村及び本埜村の1市2村で合併した市で、千葉県の北西部、東京都心から約40km、千葉市から約20km、成田国際空港から約15kmに位置しています。

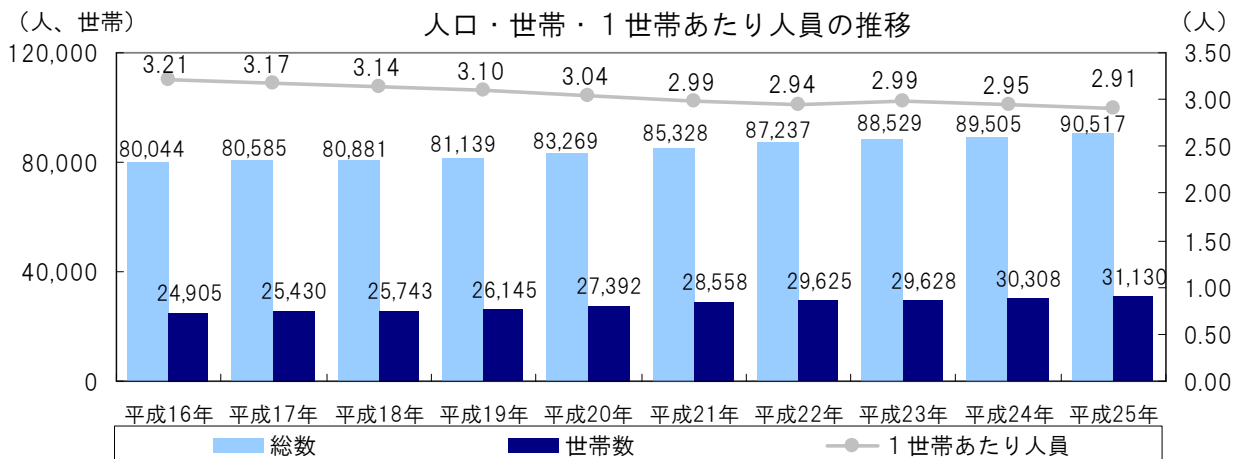
市は、千葉ニュータウン事業により開発された市街地や山林・畑が広がる台地部と、恵まれた水辺環境により豊かな水田地帯が形成されている低地部から構成されています。

(2) 人口の状況

①人口・世帯の推移

直近の10年間で、人口・世帯ともに増加傾向にあり、平成25年4月時点では90,517人、31,130世帯となっています。

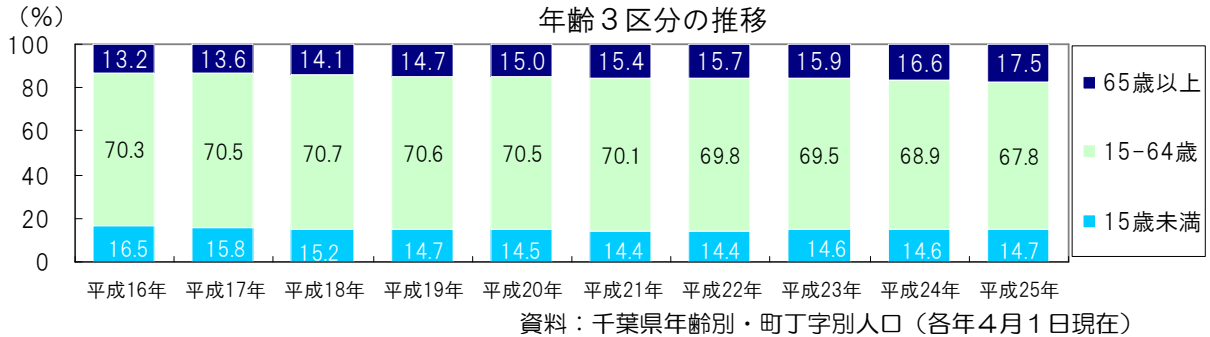
人口の伸びに対し世帯の伸びが多く、1世帯あたり人員は減少傾向が続いており、平成25年時点では2.91人となっています。



資料：千葉県毎月常住人口調査（各年4月1日現在）

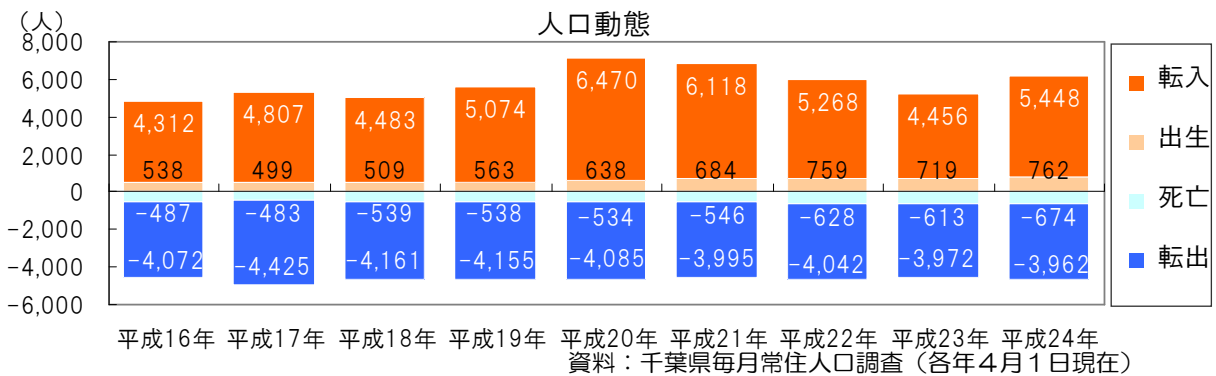
②人口構造・人口動態の推移

健康いんざい21策定時の平成16年に比べて、平成25年時点では、15歳未満は14.7%とわずかに減少し、65歳以上は17.5%と増加しており、少子高齢化が緩やかに進んでいます。



人口動態をみると、年によって差があるものの、転入が転出を上回って推移しており、毎年約4,000～6,000人が新しく転入してきていることが伺えます。

一方、出生数は増加傾向にあり、近年約700人で推移しています。



人口動態

			平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	県(平成23年)
乳児死亡	1歳未満	実数	3	1	0	0	1	2	1	2	117
		出生千対	5.6	2.0	0.0	0.0	1.6	3.0	1.4	2.8	2.3
新生児死亡	生後4週未満	実数	2	1	0	0	0	1	1	1	59
		出生千対	3.7	2.0	0.0	0.0	0.0	1.5	1.4	1.4	1.2
死産	自然死産	実数	11	7	11	10	10	8	6	13	628
		出産千対	20	14	21	17	15	12	8	18	12.2
	人工死産	実数	11.0	11.0	9.0	8.0	14.0	10.0	9.0	3.0	507
		出産千対	19.7	21.4	17.1	13.9	21.1	14.6	11.9	4.1	9.8
周産期死亡	総数	実数	6	2	5	1	3	4	3	4	220
		出産千対	10.8	3.9	9.5	1.7	4.5	5.8	4.0	5.5	4.4
	後期死産	妊娠満22週以後	4	1	5	1	3	4	2	3	180
	早期新生児死亡	生後1週未満	2	1	0	0	0	0	1	1	40
婚姻		実数	268	271	282	323	356	341	343	295	32,186
		人口千対	3.32	3.34	3.46	3.93	4.20	3.92	3.92	3.26	5.2
離婚		実数	132	129	136	148	139	128	158	127	11,591
		人口千対	1.63	1.59	1.67	1.80	1.64	1.47	1.81	1.40	1.89

資料：千葉県衛生統計年報（各年1月1日～12月31日）

※表中の市町村人口千対率の分母に用いた人口は各年3月31日「住民基本台帳人口」

※死産率は、死産数を、出産数（死産数に出生数を加えたもの）で、除している

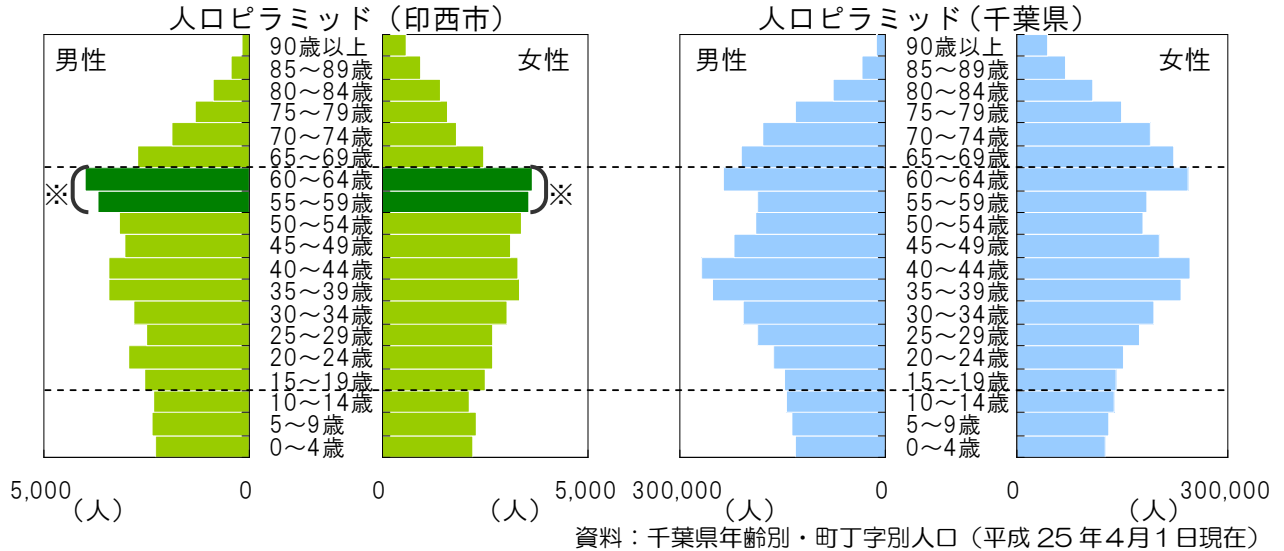
※周産期死亡率は、周産期死亡数を、出産数（妊娠満22週以後の死産数に出生数を加えたもの）で除している

※乳児死亡・新生児死亡・死産・周産期死亡は、印西市における実数が少ないため、人口千対は参考値



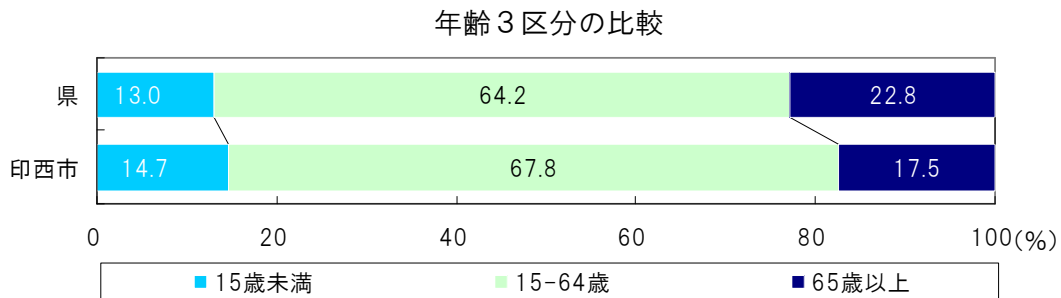
③県との比較

印西市では、65歳以上の層は県全体より高齢化がまだ進んでいないものの、55～64歳の層が比較的多いことから、今後これらの層が一斉に高齢期に入ってくることが予測されます。



※【参考】印西市総合計画において、65歳以上の高齢者は、平成22年の【14,001人（15.9%）】から、平成32年には【22,500人（22.4%）】と、10年間で約8,500人増加することが見込まれています。

年齢3区分でみると、県は15歳未満が13.0%であるのに対し、印西市では14.7%と多く、65歳以上については県が22.8%であるのに対し印西市では17.5%と少なく、県よりは若い層が多くなっています。



資料：千葉県年齢別・町丁字別人口（平成25年4月1日現在）

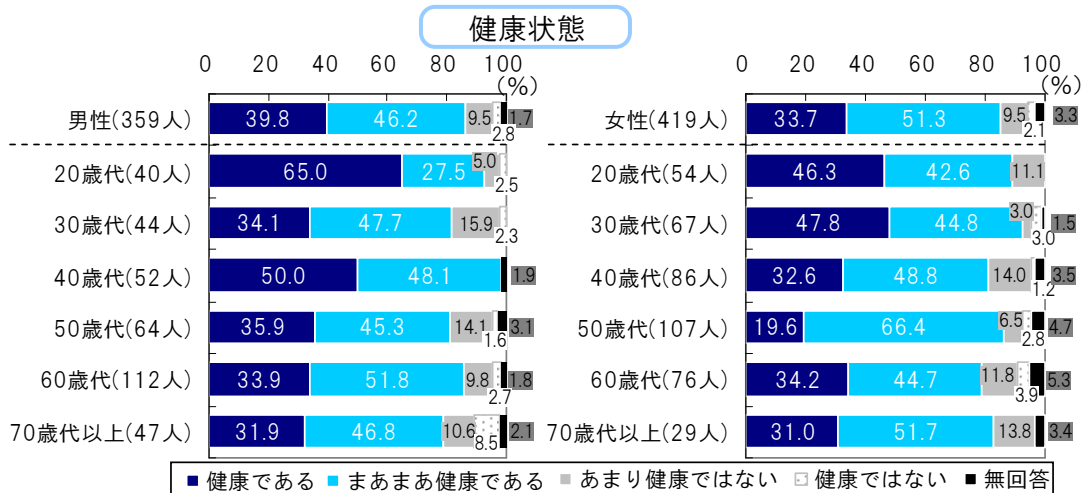
- 大規模な宅地開発や企業誘致などにより近年転入者が多く、出生数や15歳未満人口の増加と併せて、市全体の人口は増加しています。
- 現状は、千葉県の中では人口構成が若い市となっていますが、55～64歳の高齢期手前の層が県よりも多い割合であるため、今後高齢化が急速に進んでいくことが予測されます。

第2節 印西市の健康・食育・歯に関する現状

(1) 健康に関する状況

①健康状態

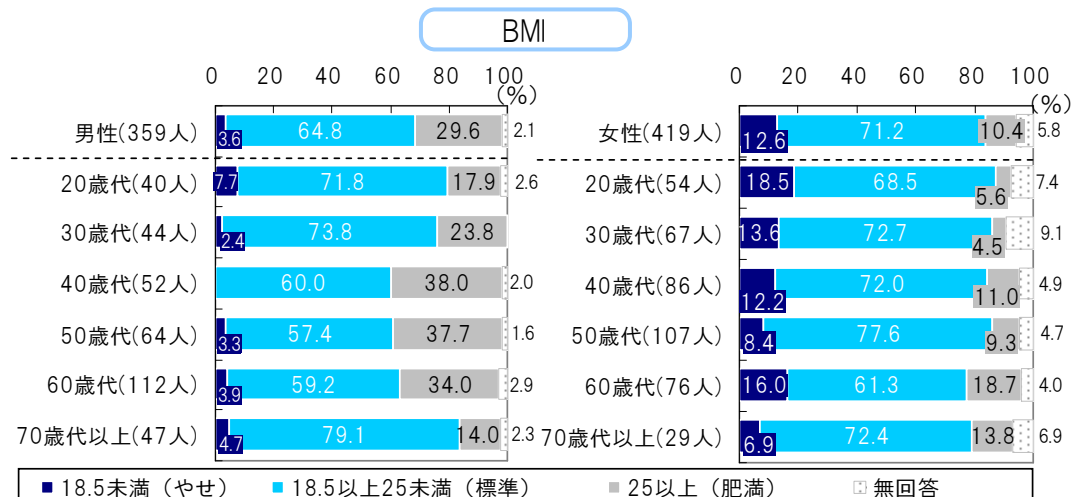
各自が感じる健康状態は、男性の20歳代と40歳代の5割以上、女性の20歳代と30歳代の4割以上で「健康である」が高くなっています。一方、「あまり健康ではない」や「健康ではない」はいずれの年代でも一定数います。



資料：平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査

②やせ・肥満の状況

成人のBMIをみると、男性の40歳代から60歳代では3割以上がBMIが「25以上(肥満)」であり、一方女性では「18.5未満(やせ)」が男性に比べ全年代で多くなっています。



[学童]肥満度(%) = {実測体重(kg) - 標準体重(kg)} ÷ 標準体重(kg) × 100
 -20%以下(やせ) ±20%未満(標準)
 +20%以上(肥満)

資料：平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査

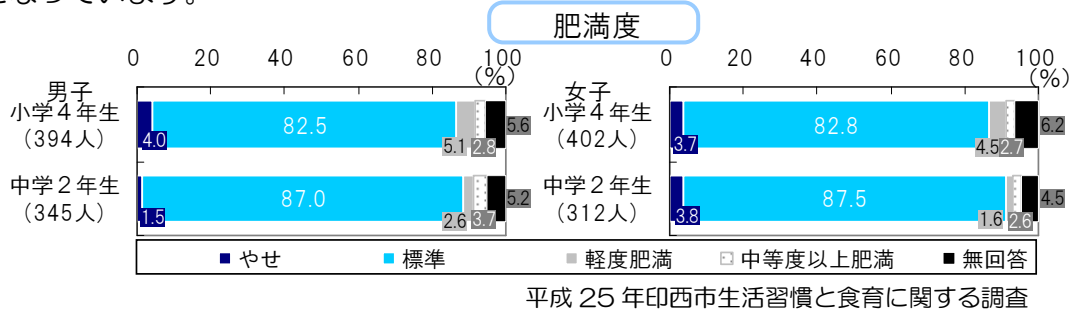
[成人] BMI (Body Mass Index) 体格指数 = 体重(kg) ÷ {身長(m) × 身長(m)}
 18.5未満(やせ) 18.5以上25未満(標準) 25以上(肥満)

BMI 22が統計学的にみて、最も病気にかかりにくい体格といわれています。BMI 25以上の方は、メタボリックシンドロームに注意が必要です。また、やせすぎも身体によくありません。BMIを参考にし、あなたの適正体重を維持しましょう！



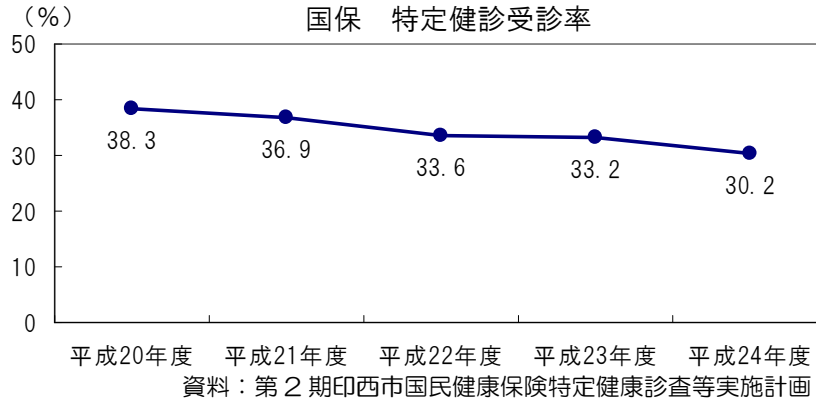


小中学生の肥満度をみると、男女ともに8割以上は「標準」であり、「肥満」は1割未満となっています。

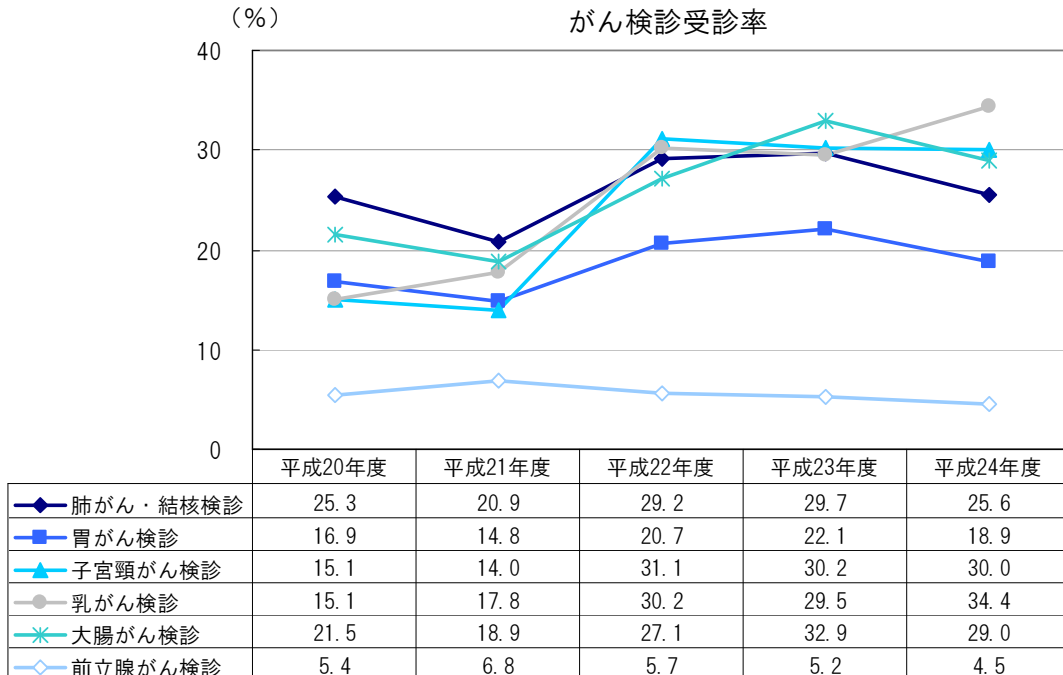


③健診受診状況

国民健康保険（国保）特定健診の受診率は、微減傾向にあり、平成 24 年度で 30.2% となっています。



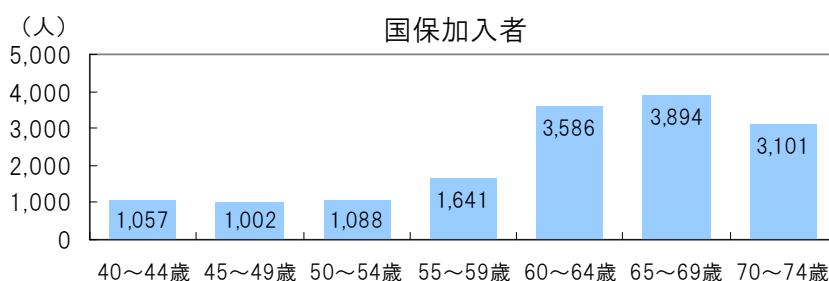
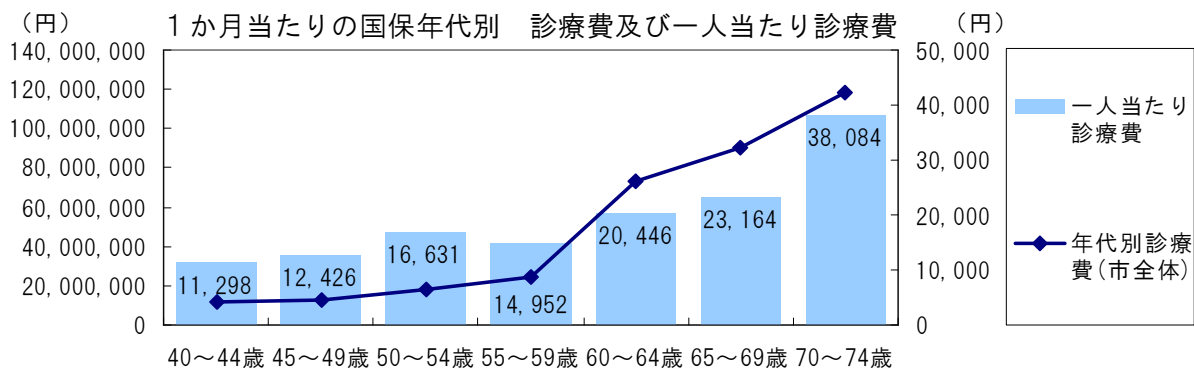
がん検診受診率は、平成 20 年度時点に比べるといずれの種類も微増しています。平成 24 年度時点で、乳がん、子宮頸がん検診は3割を超えているものの、その他のがん検診の受診率は低くなっています。



資料：データいんざい 2012（※平成 21 年度までは旧印西市のデータ、平成 22 年度以降は合併後データ）

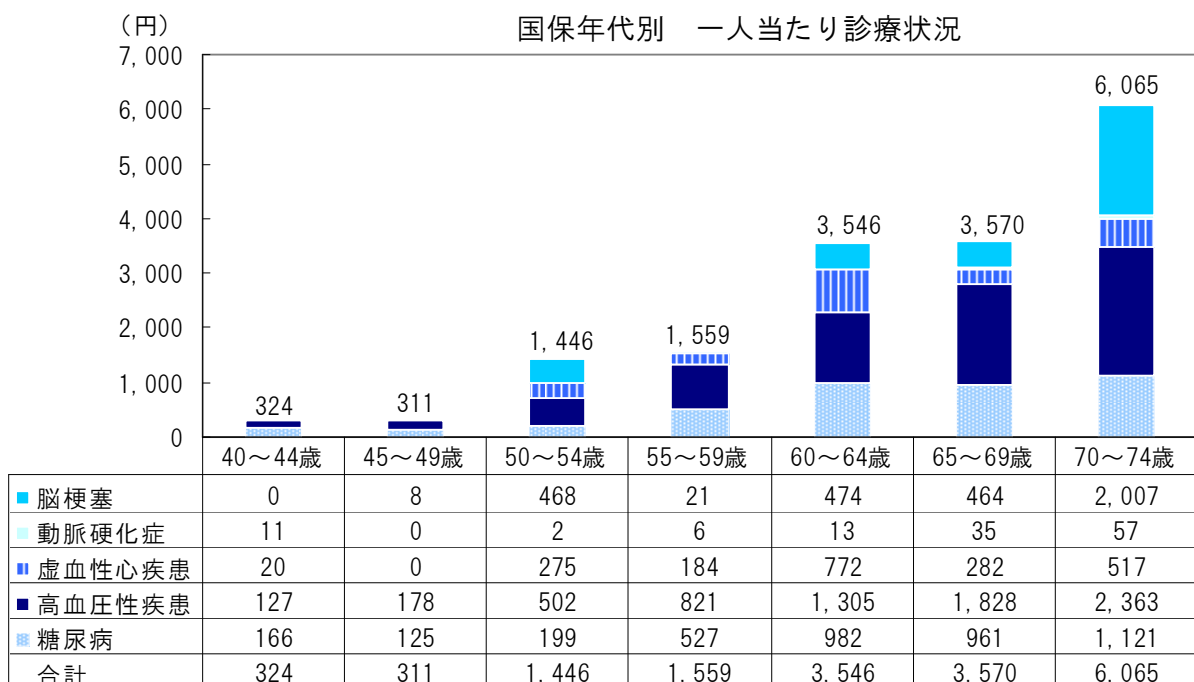
④ 診療状況

参考として、1か月当たりの年代別国民健康保険（国保）の診療費をみると、60歳以上で急激に多くなっています。また、1か月の一人当たり診療費は、40～44歳では11,298円であるのに対し、60～64歳では約2倍、70～74歳では3倍以上と急増しています。



資料：印西市国民健康保険 平成25年6月診療分

生活習慣病関連の疾病について国保の年代別の一人当たり診療状況をみると、いずれの疾病も60歳以上で急激に増えています。

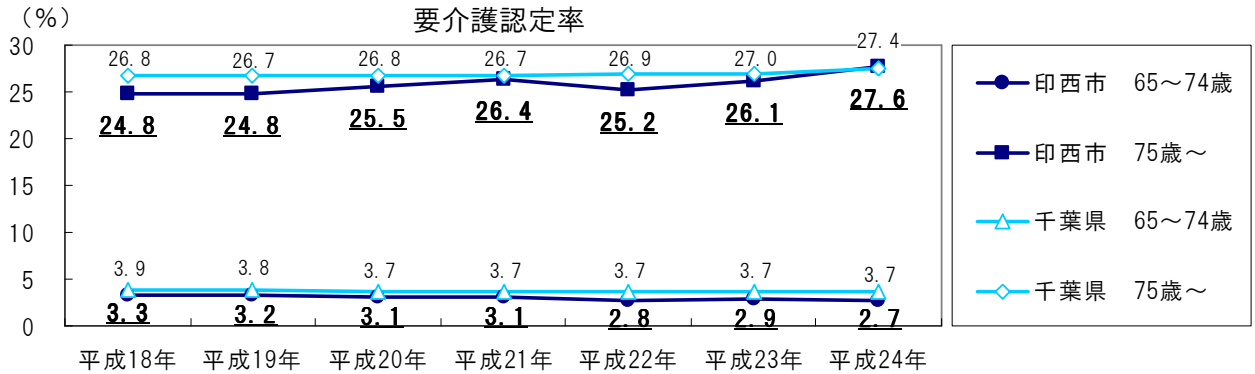


資料：印西市国民健康保険 平成25年6月診療分



⑤介護保険要介護認定率

介護保険の要介護認定率は65～74歳では微減していますが、75歳以上では微増し、千葉県と同程度となっています。平成24年の要介護認定率をみると、65～74歳では2.7%、75歳以上では27.6%と10倍近くになっています。

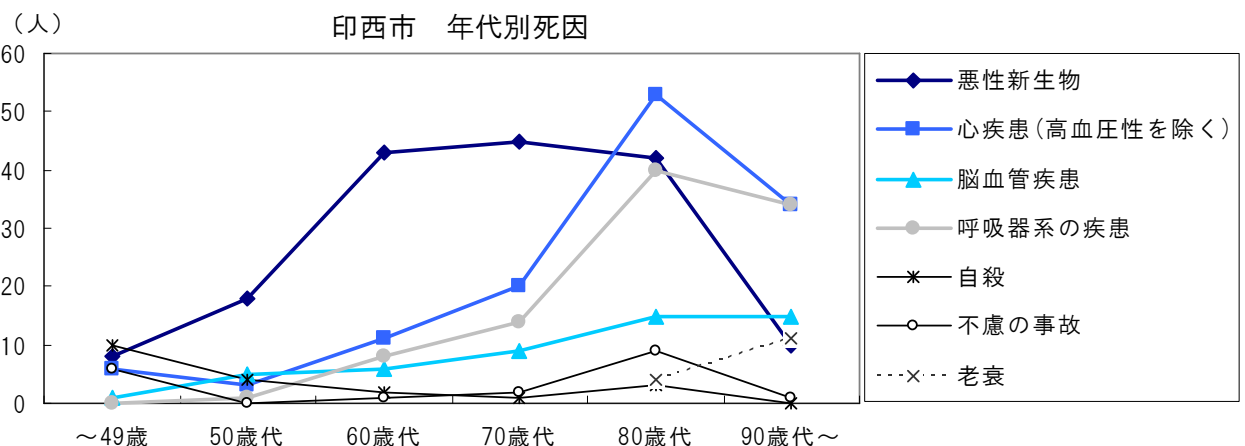
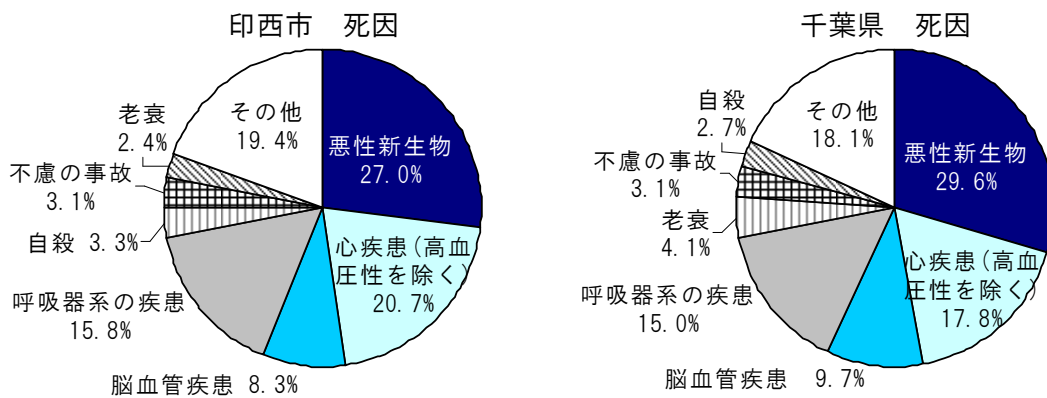


資料：介護保険事業状況報告（各年10月時点）

⑥死因

死因をみると、千葉県・印西市共に、悪性新生物や心疾患、脳血管疾患といった生活習慣病関連の疾病が5割以上と多くなっています。

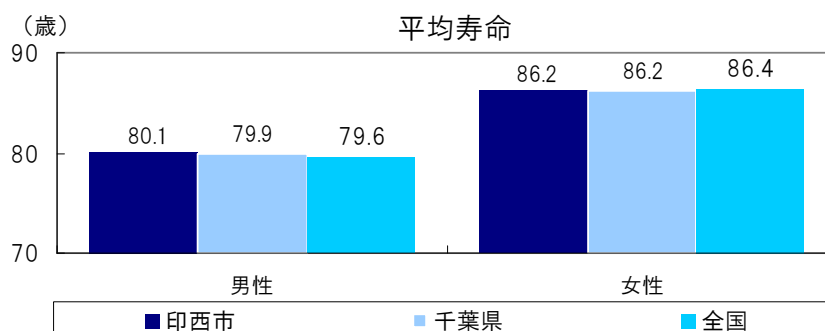
また、これらの主要死因を年代別にみると、悪性新生物は60～80歳代、心疾患や呼吸器系の疾患は80歳代以上で急激に増えています。



資料：平成23年度 千葉県衛生統計年報

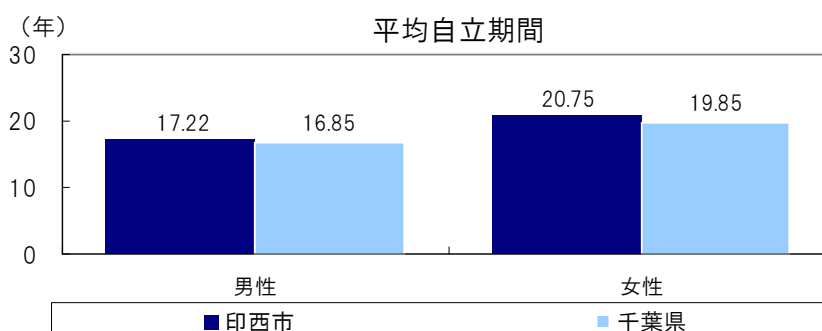
⑦平均寿命

平均寿命は、男性は 80.1 歳、女性は 86.2 歳となっています。男性は千葉県・全国に比べわずかに長くなっていますが、女性は千葉県・全国とほぼ同水準となっています。



資料：平成 22 年市区町村別生命表

65 歳平均自立期間（要介護状態でない余命を示す指標）は、男性は 17.22 年、女性は 20.75 年となっています。男女共に千葉県よりもやや長くなっています。



資料：千葉県健康情報ナビ（平成 20 年）

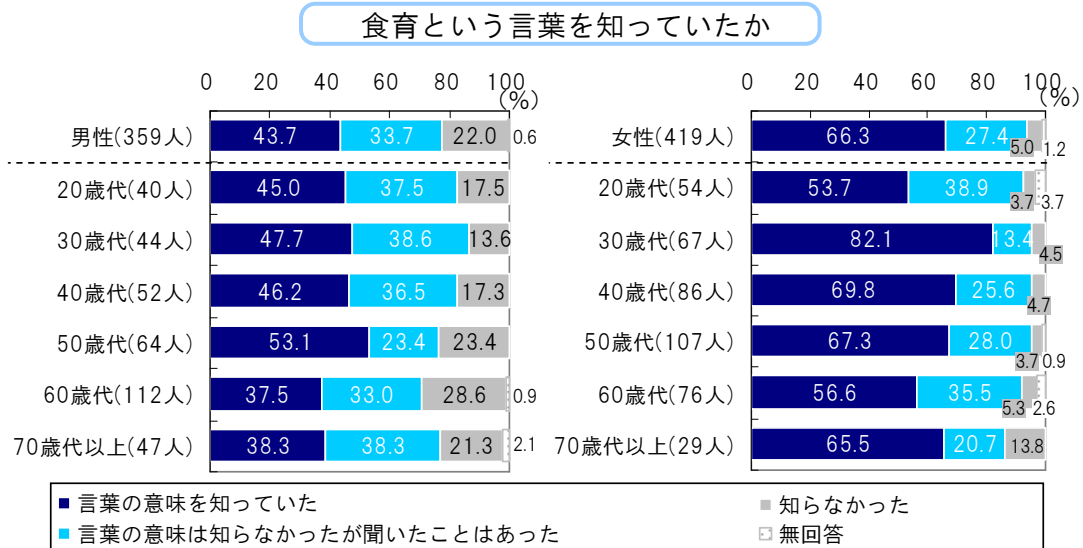
- 各自が感じる健康状態は、いずれの年代でも健康ではないと感じている人が一定数おり、何歳でも健康に感じられるような健康づくりの取り組みを促進することが必要です。特に、75 歳以上では要介護認定を受けている人が 4 人に 1 人程度と多くなっています。
- 死因の 5 割以上を生活習慣病関連の疾病が占めており、男性の 40 歳代から 60 歳代では BMI が 25 以上の肥満者が 3 人に 1 人を占め、メタボリックシンドロームや生活習慣病のリスクが高くなっています。そのため、早いうちから、適切な生活習慣を心がけ病気を予防していくことが必要となっています。



(2) 食育に関する状況

① 食育の認知度

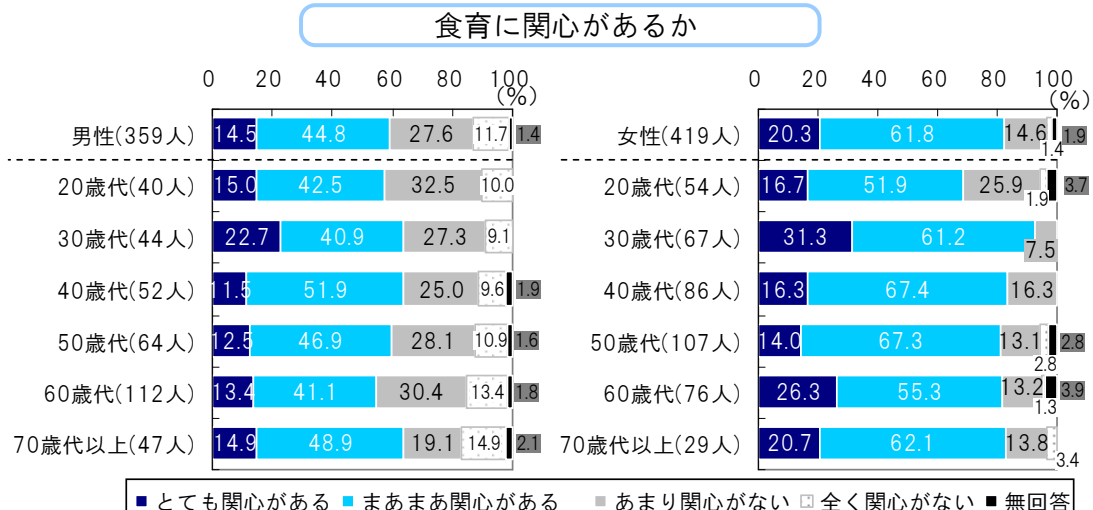
食育という言葉の認知度は、いずれの年代でも男性より女性の方が「言葉の意味を知っていた」人の割合が高く、特に女性の30歳代では8割を超えています。



資料：平成 25 年印西市生活習慣と食育に関する調査

② 食育への関心

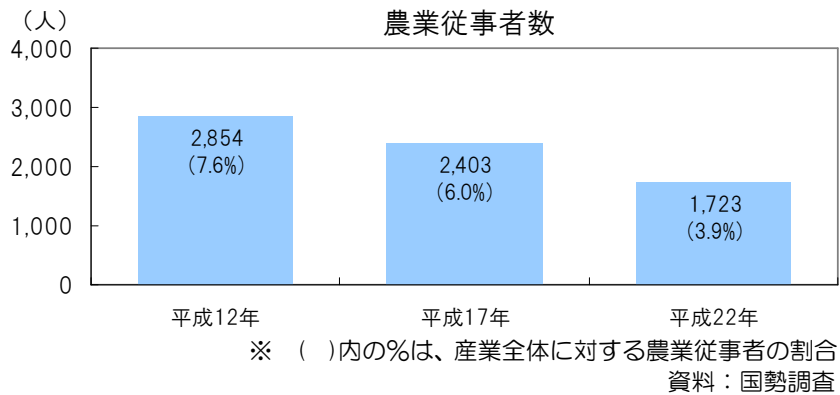
食育への関心についても、いずれの年代も男性より女性の方が「とても関心がある」「まあまあ関心がある」人の割合がやや多くなっています。



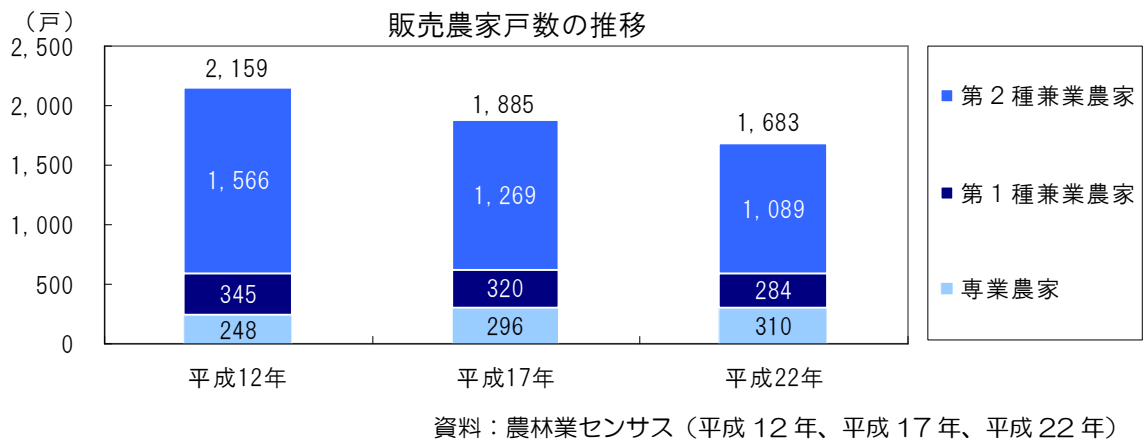
資料：平成 25 年印西市生活習慣と食育に関する調査

③農業の状況

農業従事者数は近年減少傾向にあり、平成22年時点では1,723人で産業全体で3.9%と非常に少なくなっています。

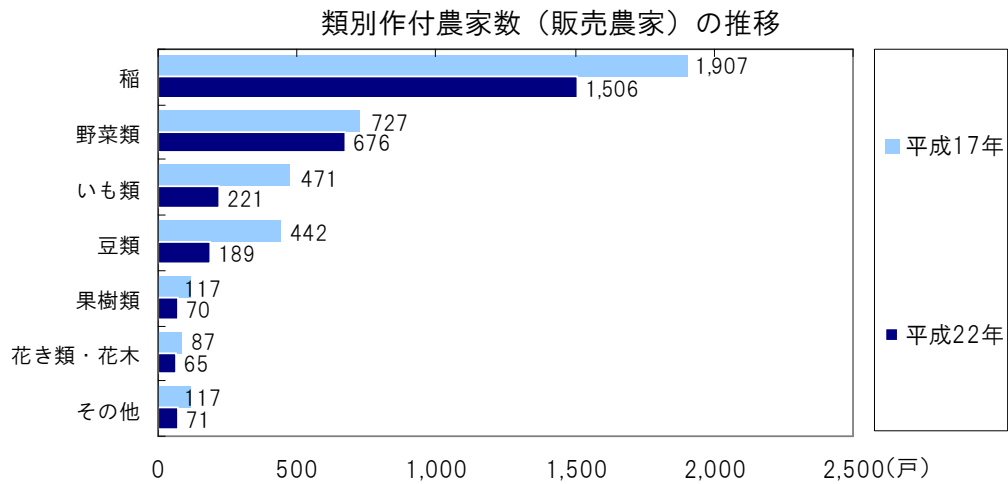


販売農家戸数は、第2種兼業農家（農業所得ではなく兼業している職から主な所得を得ている家）が年々減少傾向にあり、平成22年時点には全体で1,683戸となっています。一方、専業農家は微増しています。



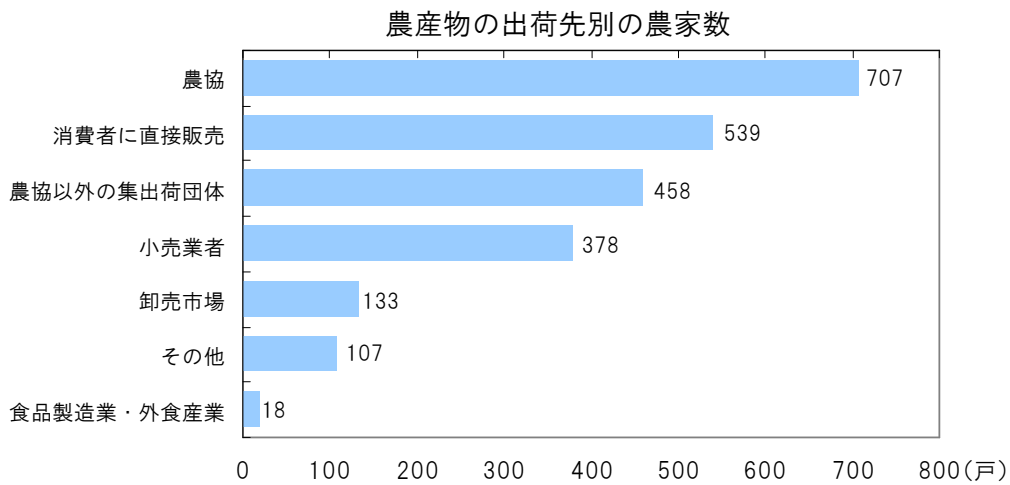


類別作付農家数（販売農家）は「稲」が最も多く、次いで「野菜類」、「いも類」、「豆類」となっています。また、平成17年に比べ平成22年には、「稲」が約400戸減っているほか、「いも類」、「豆類」の作付農家数も大きく減少しています。



資料：農林業センサス（平成17年、平成22年）

農産物の出荷先別の農家数は「農協」が707戸と最も多くなっていますが、次いで「消費者に直接販売」が539戸と多く、卸売市場への出荷よりも直接販売が多くなっています。



資料：農林業センサス（平成22年）

印西市の農産物の旬の時期は、以下のとおりとなっており、年間を通して農産物が生産されています。

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トマト					■	■	■					
なし								■	■			
米									■			
きゅうり				■	■	■	■	■				
ねぎ										■		■
いちご	■	■	■	■								
ほうれんそう	■	■	■	■								■
えだまめ						■	■	■		■		
らっかせい			■								■	■
にんじん		■	■									■
だいこん			■	■	■					■		■
いんげん						■	■	■	■			
ブロッコリー	■	■	■	■							■	
すいか					■	■	■	■				
キャベツ				■	■	■				■		
こまつな		■	■		■							■
とうもろこし					■	■	■	■				
さといも									■	■		
なす						■	■	■	■			
ミニトマト						■	■	■	■			
さつまいも									■	■		
メロン						■	■					
しょうが				■	■							
かぶ	■	■	■	■								■
たけのこ				■	■	■						

■ 最盛期 □ 出荷時期

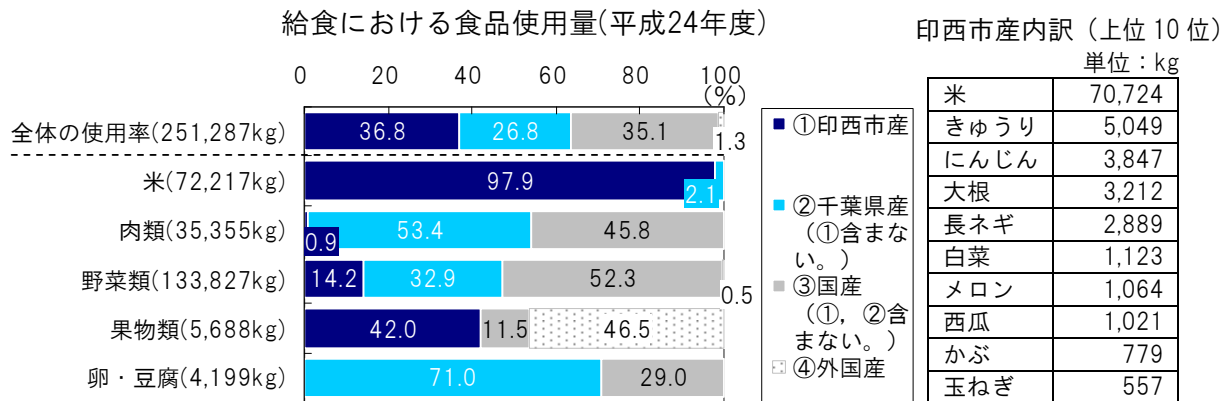
資料：JA 西印旛提供データ（平成 22 年 10 月から平成 23 年 9 月）



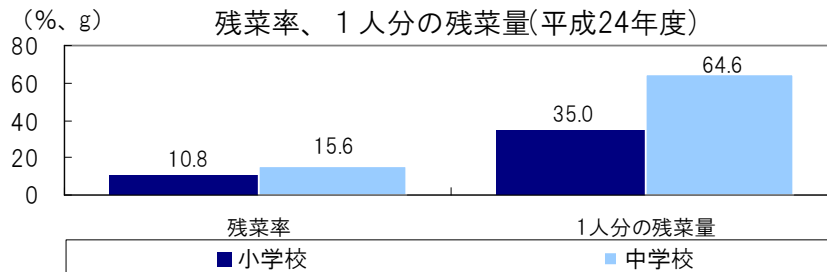
④学校給食の状況

給食における食品の産地別使用量をみると、全体の使用率は印西市産が36.8%を占めています。特に、米は97.9%とほぼすべて印西市産を使用しているほか、果物類も42.0%が印西市産です。

また、印西市産の内訳を上位10品目でみると、突出して多い米に続き、きゅうり、にんじん、大根、長ネギなどが多くなっています。



残菜率、1人分の残菜量ともに、小学校に比べ中学校の方が多くなっています。



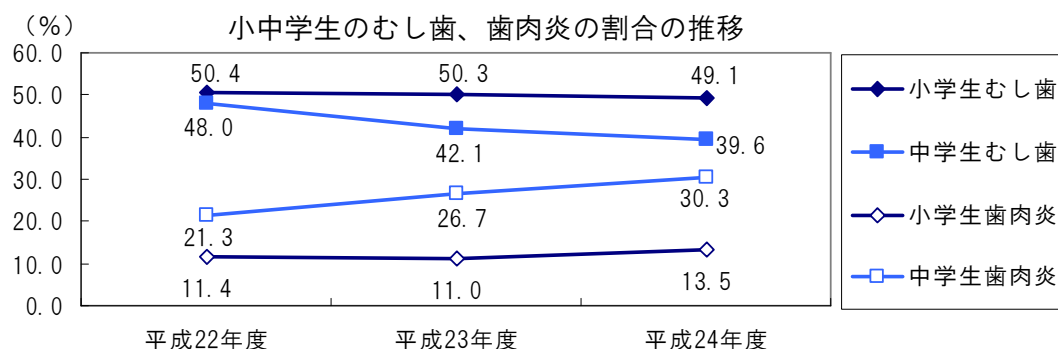
●食育という言葉の認知度や関心がある人は、男性より女性の方が多くなっており、男性への周知・啓発も重要となってきます。

●農業従事者や兼業での農家戸数は減少傾向にありますが、印西市では米や野菜などを中心に年間通じて様々な農作物が生産されており、それらを消費者に直接販売している農家が多いです。また学校給食では印西市産の米や野菜・果物類を使用するなど、地産地消を推進しています。

(3) 歯に関する状況

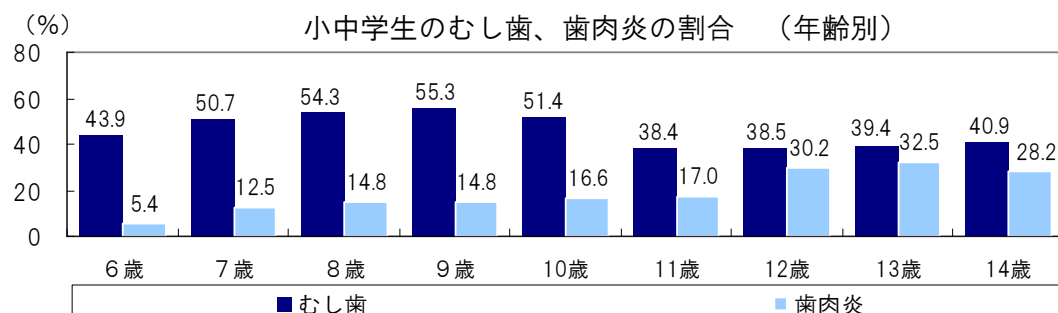
①小学生・中学生

むし歯については、小学生はほぼ横ばいとなっていますが、中学生では減少傾向にあります。一方、歯肉炎については、小学生・中学生ともに増加傾向にあります。



資料：印西市の学校保健

年齢別の内訳をみると、むし歯は7歳から10歳が約5割を超えていますが、11歳以上は4割を下回っています。一方、歯肉炎は年齢が上がるほど多くなっており、特に11歳では17.0%であったものが、12歳では30.2%と急増しています。

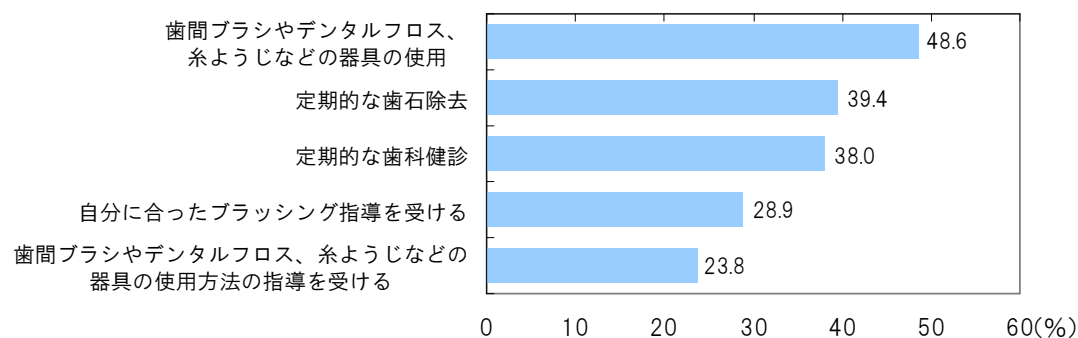


資料：印西市の学校保健（平成24年度）

②成人

歯の健康について取り組んでいることをみると、「歯間ブラシやデンタルフロス、糸ようじなどの器具の使用」が最も多く約5割となっています。

歯の健康について取り組んでいること（成人）（複数回答）



資料：平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査



第3節 第1次計画の評価

健康いんざい21（10か年間）について、策定時（平成16年度）と最終値（平成25年度）で比較した評価結果をみると、全58項目のうち、「A達成」は12.1%で歯の分野が多く、「B改善」は24.1%で、“身体活動・運動”や“こころの健康”、“健康管理”の分野が多くなっています。

印西市食育推進計画（5か年間）について、策定時（平成21年度）と最終値（平成25年度）で比較した評価結果をみると、全31項目のうち、「A達成」はなく、「B改善」は16.1%で、“食を楽しもう”の分野が最も多くなっています。

	A 達成		B 改善		C 変わらない		D 悪化		E 評価困難	
健康いんざい21	7	12.1%	14	24.1%	29	50.0%	4	6.9%	4	6.9%
1 積極的に身体活動・運動を 実践しよう	1	8.3%	4	33.3%	4	33.3%	2	16.7%	1	8.3%
2 健康的で楽しい食生活を送ろう	1	7.7%	1	7.7%	9	69.2%	0	0.0%	2	15.4%
3 ゆとりとやすらぎを持って 生活しよう	1	8.3%	4	33.3%	5	41.7%	2	16.7%	0	0.0%
4 喫煙習慣の見直しやお酒と 上手につきあおう	1	16.7%	0	0.0%	4	66.7%	0	0.0%	1	16.7%
5 歯と口の大切さを知って きれいにしよう	2	28.6%	2	28.6%	3	42.9%	0	0.0%	0	0.0%
6 自らの健康は自ら進んで 保持増進しよう	1	12.5%	3	37.5%	4	50.0%	0	0.0%	0	0.0%

	A 達成		B 改善		C 変わらない		D 悪化		E 評価困難	
印西市食育推進計画	0	0.0%	5	16.1%	16	51.6%	4	12.9%	6	19.4%
1 心も身体も健康に保ち、 “食”を楽しもう！！	0	0.0%	4	25.0%	8	50.0%	1	6.3%	3	18.8%
2 地域で取れる食材の魅力を 知り、自らかしこく“食”を 選ばう！！	0	0.0%	1	14.3%	2	28.6%	2	28.6%	2	28.6%
3 食の大切さを見直し、“食” に親しもう！！	0	0.0%	0	0.0%	6	75.0%	1	12.5%	1	12.5%

※割合は小数点以下第2位で四捨五入しているため、合計値が100.0%にならない場合があります

■評価基準

アンケート調査に関する評価については、国の「健康日本21」の最終評価時と同様の方法・基準により行いました。

今回の評価はこの国の基準に則って行っているため、外見上、A 目標達成に見えていても、元になる回答者数が少ないときなどは統計的に計算して「比較した策定時と最終値間の値には信頼がおける差がない」となり、B 改善となっている場合があります。統計的な判定は下記のとおりとなります。

A	目標値に達した	統計的にみて、目標値に達したといえる場合
B	目標値に達していないが、改善傾向にある	統計的にみて、目標値が改善したといえる場合
C	変わらない	A B D以外
D	悪化している	統計的にみて、目標値が悪化したといえる場合
E	中間評価時に新たに設定した指標又は把握方法が異なるため評価が困難	データが無い場合、そもそも比較できない調査

※次ページ以降、「A 達成」を 「B 改善」を 「D 悪化」を のマークで表しています

(1) 健康いんざい21

基本目標1 積極的に身体活動・運動を実践しよう

しっかりとした運動や、筋力トレーニングについては、市の運動教室であるヘルスアップ教室の“参加者”や“体力測定結果”は改善されているものの、20歳以上の指標である“週に2回以上30分以上の汗ばむ程度の運動”や“筋力トレーニングを実施している人”は変わらない状況となっています。

また、日常生活の中でできることとして、歩くことについては“1日に歩く時間が1時間以上”や“1日あたりのしっかり歩数(男性)”が悪化していますが、“5分程度でいける場所へは車を利用しない”という手軽なことについては改善しています。

指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評 価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
①健康づくりのための運動をしている人が増える							
運動が健康づくりのために必要と思う人の増加〔継続〕	20歳以上	63.4%	64.2%	—	70.0%	E	—
週に2回以上30分以上の汗ばむ程度の運動をしている人の増加〔継続〕	20歳以上	34.4%	38.4%	34.3%	45.0%	C	①
ヘルスアップ教室の参加者の増加〔継続〕	ヘルスアップ教室参加者	未把握	591人	1,054人	増加	A	②
②なるべく車に頼らず、積極的に歩く人が増える							
歩いて5分程度で行ける場所へは車を利用しない人の増加〔継続〕	20歳以上	55.7%	60.4%	67.6%	65.0%	B※1	①
1日(平日)に歩く時間が1時間以上の人の増加〔継続〕	20歳以上	28.8%	33.4%	24.1%	38.0%	D	①
1日あたりのしっかり歩数の増加〔修正〕	ヘルスアップ教室参加者	—	男性 4,506歩	男性 3,226歩	男性 4,500歩	D	②
		—	女性 1,999歩	女性 2,315歩	女性 2,500歩	B	②
体を動かすのがきらいな生徒の減少〔修正〕	中学2年生	—	17.8%	14.4%	10.0%	B	①
③筋力トレーニングをしている人が増える							
筋力トレーニングを実施している人の増加〔追加〕	20歳以上	—	12.3%	13.0%	20.0%	C	①
体力測定結果が改善される人の増加〔継続〕※2	ヘルスアップ教室参加者	未把握	男性 -5.6歳	-6.4歳	増加	B	②
		未把握	女性 -5.8歳	-5.9歳	増加	C	②
60歳以上で転倒してケガをした経験のある人の減少〔継続〕	60歳以上	31.4%※3	8.0%	8.2%	減少	C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査、②は事業実績

※1) 評価基準に則って計算すると、対象人数が少ないため誤差の範囲となり、表面上は達成されているように見えますが、統計上は「B改善」となります

※2) この年齢は、ヘルスアップ教室を15か月間利用した後の体力年齢の若返りを表しています

※3) アンケートの問い方が策定時のみ異なるため、評価は中間値と比較して算出しています



基本目標2 健康的で楽しい食生活を送ろう

中学2年生での指標は、“女子の肥満度-20%以下”と“食事を3食きちんと食べていない生徒”は改善されています。

20歳以上についてはすべての指標で変わらない状況となっています。

指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
①日々の活動に見合った食事量を心がけ、適正体重を維持できる							
適正体重を知っている人の増加〔継続〕	20歳以上	60.7%	60.7%	57.0%	70.0%	C	①
肥満者の減少 BMI25以上〔継続〕	男20~59歳	29.7%	31.2%	29.5%	25.0%	C	①
肥満度20%以上〔修正〕	中学2年生	—	5.2%	5.2%	5.0%	C	①
やせの減少 BMI18.5未満〔継続〕	女20~39歳	17.3%	16.7%	14.9%	16.0%	C ※1	①
肥満度-20%以下〔追加〕	中学2年生 女子	—	6.7%	3.8%	4.0%	A	①
②バランスよく食事をする事ができる							
主食・主菜・副菜をそろえて食べる人の増加〔継続〕	20歳以上	33.5% ※2	28.7%	26.5%	50.0%	C	①
野菜が多いおかずを毎食食べる人の増加〔修正〕	20歳以上	13.5% ※2	56.1%	49.0%	60.0%	C	①
(1日の野菜摂取量の増加)		—	310g	—	350g	E	—
うす味を心がけている人の増加〔修正〕	20歳以上	34.7% ※2	46.4%	45.2%	55.0%	C	①
③1日3食きちんと食べる							
1日3食きちんと食べる人の増加〔継続〕	20歳以上	63.9%	70.5%	66.6%	80.0%	C	①
食事を3食きちんと食べていない生徒の減少〔修正〕	中学2年生	—	4.0%	2.3%	0.0%	B	①
朝食を毎日食べている人の増加〔継続〕	20歳以上	80.6%	82.6%	80.9%	90.0%	C	①
④楽しく食事をする事ができる							
家族や仲間と楽しく食事ができる人の増加〔継続〕	20歳以上	69.4%	68.9%	—	80.0%	E	—

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査







※1) 評価基準に則って計算すると、対象人数が少ないため誤差の範囲となり、表面上は達成されているように見えますが、統計上は「C変わらない」となります

※2) アンケートの問い方が策定時のみ異なるため、評価は中間値と比較して算出しています

基本目標3 ゆとりとやすらぎを持って生活しよう

中学2年生では“朝スッキリと目がさめる”や“睡眠時間が足りないことがときどきある”が改善していますが、小学4年生では“朝スッキリと目がさめる”が悪化しています。

20歳以上では、“週に1回は休みをとるよう心がけている”や“毎日十分な睡眠時間が確保できる”、“交流できる場に参加している”といった、睡眠や交流に関する指標は改善されていますが、“自分の時間がいつもある”というストレス解消に関する指標は悪化しています。

指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
①適度に睡眠をとりスッキリと目がさめる							
①朝スッキリと目がさめたと感じる人が増える							
疲れが翌日まで残っている日がある人の減少〔継続〕	20歳以上	13.2%	16.1%	14.5%	10.0%	C	①
 週に1回は休みをとるよう心がけている人の増加〔継続〕	20歳以上	35.3%	49.4%	47.8%	55.0%	B	①
 朝スッキリと目がさめる児童・生徒の増加〔追加〕	中学2年生	—	46.0%	48.0%	50.0%	B	①
	小学校4年生	—	69.9%	67.2%	75.0%	D	①
②適度な睡眠時間を確保できる人が増える							
 毎日十分な睡眠時間が確保できる人の増加〔継続〕	20歳以上	49.6%	59.3%	67.6%	70.0%	B	①
 睡眠時間が足りないことがときどきある生徒の減少〔修正〕	中学2年生	—	83.4%	79.0%	減少	A	①
③気持ちゆとりをもち笑顔で生活できる							
①自分に合ったストレス解消法を見つけ実行できる人が増える							
ストレスが解消できている人の増加〔継続〕	20歳以上	74.9%	76.4%	72.4%	81.0%	C	①
 自分の時間がいつもある人の増加〔継続〕	20歳以上	44.8%	41.1%	40.1%	50.0%	D	①
②仲間や地域と交流している人が増える							
市内の交流施設を知らない人の減少〔継続〕	20歳以上	7.8%	6.1%	7.4%	5.0%	C	①
 交流できる場に参加している人の増加〔継続〕	20歳以上	未把握	35.6%	47.9%	45.0%	B	①
悩み事を相談できる人が身近にいる人の増加〔継続〕	20歳以上	72.8%	76.0%	69.5%	80.0%	C	①
仲間と楽しく過ごす時間がある人の増加〔継続〕	20歳以上	未把握	72.8%	69.2%	80.0%	C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査



基本目標4 喫煙習慣の見直しやお酒と上手につきあおう

中学2年生の“たばこの害について学習”については全校で実施でき、目標達成となっています。

20歳以上ではすべての指標で変わらない状況となっています。

指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
①たばこを吸う人が減る							
たばこを吸う人の減少〔継続〕	20歳以上	18.2%	16.5%	15.1%	10.0%	C ※1	①
禁煙に取り組む意思のある人の増加〔継続〕	20歳以上	64.5%	55.8%	72.5%	70.0%	C ※1	①
②たばこの害を正しく知っている人が増える							
子どもや妊婦の近くでたばこを吸わない人の増加〔継続〕	20歳以上	44.3%	58.2%	(33.1% ※2)	70.0%	E	—
たばこの害について学習した生徒の増加〔修正〕	中学2年生	未把握	74.1%	100.0% %	100.0% %	A	②
③適度な飲酒量を守れる人が増える							
適正飲酒量を知っている人の増加〔継続〕	20歳以上	75.3%	62.8%	69.8%	80.0%	C	①
1日の飲酒量が適正飲酒量より多い人の減少〔継続〕	20歳以上	34.9%	35.3%	38.5%	20.0%	C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査、②は事業実績

※1) 評価基準に則って計算すると、対象人数が少ないため誤差の範囲となり、表面上は達成または改善されているように見えますが、統計上は「C変わらない」となります





※2) 参考値として最終値を入れていますが、アンケート調査が策定時・中間値と異なる選択肢であったため大幅に減少したものと推測されます



基本目標5 歯と口の大切さを知ってきれいにしよう

3歳児の“3歳児健診でむし歯がない”や、中学2年生の“歯肉炎”や“食後歯みがきができている”は改善されていますが、小学生では変わらない状況です。

20歳以上では、“定期的に歯科健診や歯石除去を受けている”が目標達成となっています。





指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評 価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
①定期的に歯科健診や歯石除去を受けている人が増える							
 定期的に歯科健診や歯石除去を受けている人の増加〔継続〕	20歳以上	22.6%	26.4%	42.6%	35.0%	A	①
②年をとっても自分の歯でおいしく食べている人が増える							
歯科医院や保健センターなどで自分に合った歯みがき方法について教えてもらったことのある人の増加〔継続〕	20歳以上	28.3%	42.2%	28.9%	50.0%	C	①
 歯肉炎になっている児童・生徒の減少〔継続〕	中学2年生 (全学年計)	37.9%	37.4%	32.5%	20.0%	B	②
	小学生 (全学年計)	13.3%	21.5%	13.5%	10.0%	C	②
③子どもをむし歯にしない							
 3歳児健診でむし歯がない児童の増加〔継続〕	3歳児	72.9%	77.0%	87.0%	80.0%	A	②
 食後歯みがきができている児童・生徒の増加〔修正〕	中学2年生	—	73.2%	84.5%	100.0%	B	①
	小学4年生	—	80.3%	81.6%	100.0%	C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査、②は事業実績



基本目標6 自らの健康は自ら進んで保持増進しよう

“年に1回は健（検）診を受けている”や“健（検）診を受けたことがない”などの健診状況や、“かかりつけ薬局のある人”、“健康について学ぶ機会がある人”といった、ほぼすべての指標について改善されています。

指 標	対 象	策定時	中間値	最終値	目標値	評価	
		平成16年度	平成20年度	平成25年度	平成25年度		
健（検）診や予防接種を受けている							
①年に1回は健（検）診を受けている人が増える							
 年に1回は健（検）診を受けている人の増加〔継続〕	20歳以上	68.7%	72.5%	76.1%	80.0%	B	①
 健（検）診を受けたことがない人の減少〔継続〕	20歳以上	10.8%	10.3%	1.6%	5.0%	A	①
②必要な予防接種を受けている人が増える							
予防接種の望ましい時期の接種率（参考値）ポリオ〔修正〕	乳幼児	—	94.9%	95.0%	100.0%	C	②
③かかりつけ医を持っている人が増える							
かかりつけ医のいる人の増加〔継続〕	20歳以上	58.0%	57.4%	60.8%	70.0%	C	①
かかりつけ歯科医のいる人の増加〔継続〕	20歳以上	57.5%	57.6%	61.5%	70.0%	C	①
 かかりつけ薬局のある人の増加〔継続〕	20歳以上	24.6%	29.3%	41.8%	40.0%	B ※1	①
健康についての知識や情報を持っている							
①身近な場所で正しい健康情報を得られる人が増える							
 健康について学ぶ機会がある人の増加〔継続〕	20歳以上	28.1%	45.7%	42.8%	60.0%	B	①
健康に関する情報を健康づくりに役立てている人の増加〔継続〕	20歳以上	未把握	65.4%	66.5%	70.0%	C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査、②は事業実績

※1) 評価基準に則って計算した結果、表面上は達成されているように見えますが、統計上は「B改善」となります

(2) 印西市食育推進計画

基本目標1 心も身体も健康に保ち、“食”を楽しもう！！

20歳以上では、“食事バランスガイド※1を参考にしている”や“メタボリックシンドロームの認知”で改善傾向にあります。

また、“朝食を毎日食べている人の割合”が小学4年生と中学2年生で改善傾向にある反面、“ひとりで食事をする子ども”では中学2年生で悪化となっています。

指 標	対 象	策定時	最終値	目標値	評価	
		平成20年度	平成25年度	平成25年度		
食育に関心を持っている人の割合	20歳以上	70.5%	71.4%	80%	C	①
食事バランスガイドを参考にしている人の割合	20歳以上	6.1%	8.9%	10%	B	①
栄養バランスの優れた「日本型食生活」の実践、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養のバランスに気をつけている人の割合	20歳以上	81.6%	—	90%	E	—
朝食を毎日食べている人の割合	30歳代男性	58.9%	61.4%	70%	C	①
	30歳代女性	87.3%	77.6%	90%	C	①
	20歳代男性	62.5%	57.5%	70%	C	①
	20歳代女性	60.9%	66.7%	70%	C	①
	中学2年生	86.5%	90.2%	100%をめざす	B	①
	小学4年生	92.0%	94.6%		B	①
	就学前児	96.1%	95.7%		C	①
メタボリックシンドロームを認知している人の割合	20歳以上	75.1%	80.3%	80%	B	①
家族や友人と食卓を囲み、食を楽しむ機会を増やすなど、食を通じたコミュニケーションを充実させている人の割合	20歳以上	68.9%	—	80%	E	—
自らも料理に取り組んでいる人の割合	20歳以上男性	46.5%	—	50%	E	—
ひとりで食事をする子どもの割合（夕食）	中学2年生	4.9%	6.7%	0%に近づける	D	①
	小学4年生	0.4%	0.9%		C	①
	就学前児	0.3%	0.5%		C	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査

※1)「食事バランスガイド」とは、平成17年に厚生労働省と農林水産省が共同で作成した食育媒体ツールで、健康的な食生活を実現するために1日に何をどれだけ食べたらよいかを、コマのイラストで示したものです。

農林水産省ホームページ：http://www.maff.go.jp/j/balance_guide/





基本目標2 地域で取れる食材の魅力を知り、自らかしこく“食”を選ぼう！！

“印西市や千葉県内産の食品をすすんで購入している”は増加傾向にあるものの、“1日に食べる野菜料理数”は変わらない、あるいは小学4年生や就学前児童では悪化となっています。



指 標	対 象	策定時	最終値	目標値	評 価	
		平成20年度	平成25年度	平成25年度		
1人あたりの野菜摂取量 (g)	20歳以上	310g	—	350g	E	—
1日に食べる野菜料理数 (3皿以上食べる割合 就学前児は2皿以上)	20歳以上	41.4%	43.6%	50%	C	①
	中学2年生	42.0%	41.5%	50%	C	①
	小学4年生	45.7%	43.2%	50%	D	①
	就学前児童	66.1%	45.9% ※1	70%	D	①
印西市や千葉県内産の食品をすすんで購入している人の割合	20歳以上	56.6%	65.9%	70%	B	①
食品表示を活用している人の割合	20歳以上	未把握	80.0%	60%	E	—

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査

※1) 策定時のアンケートに比べ、選択肢をより細かくしたことにより、数値が下がったことが推測されます

基本目標3 食の大切さを見直し、“食”に親しもう！！

“郷土料理を知っている”については、印西市には代表的な郷土料理※1が少ないことや転入者が多いことから悪化傾向にあります、他の指標は変わらない状況となっています。



指 標	対 象	策定時	最終値	目標値	評 価	
		平成20年度	平成25年度	平成25年度		
食べ残しを減らす努力をしている人の割合	20歳以上	88.0%	—	100%に 近づける	E	—
	中学2年生	89.1%	90.6%		C	①
	小学4年生	89.7%	91.0%		C	①
食べ残しや食品廃棄が発生していることに関して日 ころから「もったいない」と感じる人の割合	20歳以上	95.7%	94.9%	100%に 近づける	C	①
	中学2年生	86.9%	88.2%		C	①
	小学4年生	88.5%	88.9%		C	①
行事食を伴う伝統的な行事を行っている人の割合 (1年間に3～4回以上実施)	20歳以上	64.8%	65.5%	70%	C	①
郷土料理を知っている人の割合	20歳以上	8.3%	4.3%	10%	D	①

評価欄 ①は平成25年印西市生活習慣と食育に関する調査

※1) この地域に伝わる主な郷土料理の例としては、ばらっぱ饅頭、祭りずし(太巻きずし)、落花生料理(茹で落花生など)、雑魚煮などがあげられます。